

子どもが主体的に学ぶ授業の実践

～「自分ごと」として学習に取り組む子を育てる指導の工夫～

(3年計画の3年次)

校長 田村 元 印

1 研究主題について

平成28年度教職員に実施した「子どもたちに身に付けさせたい資質や能力」についてのアンケートでは、「思考力・表現力・判断力」「主体性」「聞く力」を身に付けさせたいという意見が最も多く、児童の実態から、「自分ごと」として話を聞く力・失敗を生かして学ぶ力・自分の考えを話す力・最後までやり遂げる力が弱いことが課題としてあげられた。そこで、自己を見つめ、「自分ごと」として学習を進めることができる子を育成するため、学び方を身に付けさせるとともに授業改善を図りながら、子どもが主体的に学ぶ授業を実践していくこととした。

また、本校はこれまで、東京大学大学院市川伸一教授が提唱する「教えて考えさせる授業」を実践してきた。その成果を生かし、指導内容に応じて「予習、教師の説明、理解確認課題、理解深化課題、自己評価」という授業スタイルを効果的に取り入れてきた。

1年次は、聞く力を伸ばす指導について発達の段階を考慮し、低学年と中・高学年に分けて研究を進めた。まず、低学年では、「聞きたい」という心情を育て、「聞くこと」の素地を養った。中・高学年では、「自分ごと」として話を聞く力を育てるため、聞きたくなる教師の説明や課題設定などを工夫した。その結果、集中して話を聞き課題に向かう姿が見られた。

2年次は、さらに、考えを表現する力を伸ばす指導を工夫した。ノートなどに思考過程を表現する手立てを身に付けさせ、子ども一人一人の考え方やその変化が見えるような授業を工夫したことで、自分の考えの変化を書くことができる児童が増えた。また、書き込みなどを示しながら伝える力や自分の考えと比べながら聞く力を伸ばすことができた。課題としては、さらに相手意識をもって表現する力や、「自分ごと」として聞き、あきらめずに課題に向かう力を身に付けさせることがあげられた。

これらの成果と課題をふまえて、3年次の今年度は、「自分ごと」として学習に取り組む子を育てる指導を工夫することとした。まず、課題提示を工夫することで問いをもたせ、全体でそれを共有させる。それによって、それまで身に付けた学び方を生かしてあきらめずに取り組み、最後までやり遂げようとする子どもを育てることができると考える。また、振り返りの場を設定して考えの変化や深まりを自覚させる。このような授業を重ねることで、「自分ごと」として主体的に学ぶ子どもを育てていきたい。

2 研究のねらい

自己を見つめ「自分ごと」として主体的に学習に取り組む子を育てるための指導の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

3 研究仮説

- (1) 課題提示を工夫することで、主体的に学習を進める力を付けることができる。
- (2) 振り返りをさせることで、考えの変化や深まりに気付かせることができる。

4 研究内容

- (1) 問いをもたせそれを全体で共有させるための、教材のしかけや提示の工夫。
- (2) 考えの変化や深まりなどを自覚させるための、振り返りの場の設定。

5 年間計画

(1) 授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	4	研究過程の説明と主題、副題、仮説等の提案 授業者検討	全体会（共通理解）
4	24	研究計画等について 研修講座等確認	全体会（共通理解）
5	29	学年研修	指導案作成
6	5	ブロック研修	指導案作成・検討
7	3	ブロック研修	指導案作成・検討
9	11	ブロック研修	指導案作成・検討
9	18	第1回授業研究 低学年 2年1組 算数 授業者 教諭 花生 貴美子	
9	25	第2回授業研究 中学年 4年2組 国語 授業者 教諭 水江 真亜子	
11	6	第3回授業研究 高学年 5年2組 社会 授業者 教諭 中村 規康	
1	9	今年度の研究のまとめ（成果と課題） 現状と課題	全体会（共通理解・話し合い）
1	22	次年度の方向性について	全体会（話し合い）
2	12	次年度の研究主題について	全体会（話し合い）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	24	特別支援研修① 個別の指導・配慮が必要な児童についての情報共有
6	11	プログラミング研修：八戸市総合教育センター主任指導主事 石井一二三先生
7	19	救命講習会：救急法の訓練 八戸消防署
8	20	特別支援研修②
10	31	心のケア研修：講師 立教大学 教授 大石幸二先生
12	4	特別支援学級の授業公開
2	12	県外研修報告会①
2	19	特別支援研修③：特別支援学級の児童の指導についての共通理解 学力検査分析報告 県外研修報告会②

（記入者 石橋 誉世）